

C型慢性肝炎に対する抗ウイルス薬治療後の肝組織改善

大阪市立大学は、C型慢性肝炎に対する経口直接作動型抗ウイルス薬治療後の肝組織の改善を顕微鏡レベルで確認し、研究結果を「United European Gastroenterology Journal」に掲載しました。



C型肝炎ウイルスが肝細胞から完全排除された場合、血液検査の結果が改善するだけでなく、肝生検組織で顕微鏡レベルの炎症や線維化が改善し、長期的には肝硬変や肝臓がんへの進展も抑制されることが期待されます。

